

2007 年度

科目名 教科教育法特講 I	対象学科・学年 専攻科教福 1 回生	担当者 金川 廣一郎
授業テーマ 小学校における国語科教育のあり方		
授業の概要と目標 国語科の学習を中心にして、授業中はもちろんのこと日々の学校現場で役立つさまざまなアイデアやツールを紹介する。講義だけでなく実際に行うことを通して自分なりに消化・吸収し、教壇に立ったときに余裕をもって子どもたちに接することができるようにしたい。		
評価方法 出席状況や課題に対しての取り組みの様子、ノートやワークシート等の提出物等によって評価する。		
テキスト 小学校学習指導要領（国語編）	著者 文部科学省	出版社 東洋館出版
参考書 講義時に随時指示する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. オリエンテーション 2. 学習指導要領の趣旨と授業の実際 3. 教材分析と指導案作成の間の課題 4. よい授業とよくない授業（各自の実演を通して） 5. 授業の実際と問題点の分析（ビデオを活用して） 6. 授業の改善と授業技術①（授業の組み立てと学習の場の設定など） 7. 授業の改善と授業技術②（説明・発問・指示・指名など） 8. 授業の改善と授業技術③（机間指導・実態把握・評価） 9. 「実践アクセス講義」（ゲスト・ティーチャー）現職の先生による講義「書写指導」 10. 指導案作成と準備（模擬授業を想定して） 11. 模擬授業と討議会① 12. 模擬授業と討議会② 13. 模擬授業と討議会③ 14. さまざまな状況での的確な対応（模擬授業からの事例提示を通して） 15. まとめ ※ 指導者からの講義の時間と学生による演習の時間を有機的に組み合わせる。 ※ 自ら考えたり行動を起こしたりすることが第一の条件である。 ※ さまざまな場に於いて、能動的な積極的参加が必要である。		